

## 皆様、お世話になりました(退職に際して)

松岡 正義

昭和43年(1968年)徳島県に採用され、それ以来24年間を水産試験場(鳴門分場2年、本養増殖科3年、鳴門分場13年、本場病理科、鳴門分場生産科2年)に在職し、水産増養殖関係を中心に鳴門と日和佐で勤務しましたが、県庁職員25年目にして、水産課へ異動となり、以来水産振興、団体指導、漁業調整と経験させていただき、県庁最後の年には水産研究所長を兼務拝命しました。各々の職場で、その時々によくの方々に教えを受け、また手助けいただき、皆様方のお陰で県庁生活を無事終えることができました。ここに改めてお礼申し上げます。

振り返りますと、私の入所した当時は栽培漁業を中心とした漁業振興策の展開が始まり、養殖漁業では、播磨灘、紀伊水道を中心とするクロノリ、ワカメ養殖業の草創発展期で、クロノリ養殖では人工採苗、育苗、冷凍網、浮流し養殖等の技術導入並びに試験研究、現地指導で忙しく、ワカメ養殖では種苗生産、本養殖に関する技術発展が求められた時期でした。その後は公害、自然災害、臨海開発に関わる漁業被害、影響調査などが多くなり、本四架橋漁業影響調査、三菱重油排出事故に関わる調査試験、那賀川・吉野川における濁り関係調査、試験、国土庁による第一回薩摩干潟調査等が思い出深い仕事となりました。

さて、最近の水産研究所のおかれている状況について見ますと、試験研究機関全体の組織再編が進みつつあり、その中で成果とそれに基づく行政的評価が行われています。水産研究所としての今後の研究課題は、長期的、短期的視点と漁業界のみならず広く県民にもアピールできるよう設定し、押し進める必要があるのではと感じております。

徳島県漁業の発展を祈りながら退職のご挨拶とさせていただきます。

本当に皆様お世話になり、有難うございました。